

ASEAN 大使通信 第 10 回 ASEAN 関連首脳会議の成果

2023 年（令和 5 年）9 月 29 日



日 ASEAN 首脳会議（2023 年 9 月 6 日、内閣広報室提供）

9 月上旬、ジャカルタでは [ASEAN 関連首脳会議](#) が開催され、日本からは岸田総理が出席しました。ASEAN の年間行事の中では、この秋の首脳会議が最大のハイライトです。ASEAN 日本政府代表部は在インドネシア日本国大使館とともに事前の準備と当日の支援を担当し、一連の会議・会談を通じて大きな成果を上げることができました。

今回の首脳会議の前後にも、様々な行事が開催されました。直前のビジネス関連行事には、日本からも JETRO をはじめ政府関係者や起業家が参加しました。首脳会議終了後も、海上交通や人道支援・災害救援分野の日 ASEAN 協力ワークショップ、ジャカルタ日本人学校（JJS）の日 ASEAN 研究発表などが相次いで行われました。幅広い関係者のご尽力で、大変密度の濃い 1 か月となりました。

今回の大使通信では、ASEAN 関連首脳会議を中心に今月の行事と成果をご紹介します。12 月に東京で開催予定の日 ASEAN 友好協力 50 周年特別首脳会議に向けて今後どのように取組を進めるか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



ASEAN インド太平洋フォーラムでの岸田総理スピーチ
(2023年9月6日、内閣広報室提供)

●ASEAN 関連首脳会議

9月5日の夕刻にジャカルタ空港で岸田総理一行をお迎えし、6日には [ASEAN インド太平洋フォーラムでのスピーチ](#)、[日 ASEAN 首脳会議](#)、[ASEAN+3（日中韓）首脳会議](#)、ガラディナー出席、7日には[東アジア首脳会議（EAS）](#)、[会見](#)が相次いで開かれました。各行事の前夜や最中には、バイや3カ国の会談や懇談、立ち話も行われました。また、この機会に岸田総理は[コンパス紙に寄稿](#)しました。

今回、12月の日 ASEAN 友好協力 50 周年特別首脳会議（於東京）に向けて、ASEAN と「[包括的戦略的パートナーシップ（CSP）](#)」を立ち上げ、「[日 ASEAN 包括的連結性イニシアティブ](#)」を発表することができました。また、日本が訴える「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」と「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）」が相乗効果を発揮するような協力を実現するとの考え方を改めて確認することができました。[ALPS 処理水の海洋放出](#)についても、多くの場で日本の立場を説明することができました。

私自身、一連の会議・行事や勉強会で同席・傍聴する機会を得て、首脳外交の現場での個々のアレンジや意思決定・意見交換が、本当に多くの関係者のチームプレイや個々人の工夫や努力に支えられていると実感しました。



岸田裕子総理夫人のジャヤ大林訪問（2023年9月7日、内閣広報室提供）

●岸田裕子総理夫人の行事出席・訪問

今回のASEAN関連首脳会議には、岸田裕子総理夫人も同行して、公式行事への参加や様々な訪問・懇談を行いました。

9月6日には、インドネシア大統領夫人主催の公式配偶者プログラムに参加して教育・文化施設タマン・ミニを訪問した他、インドネシアで活躍する在留邦人女性と懇談し、ガラディナーに出席しました。

また、9月7日にはジャカルタ日本人学校、残留日本兵ギャラリー、ジャヤ大林を訪問して、日本とインドネシアの友好協力関係を支える日インドネシア双方の関係者との交流を行いました。

今回の一連の訪問や交流では、「女性の活躍」や「多様性」がテーマとして取り上げられ、日本テレビや広島テレビのニュースでも報じられました。



ASEAN 未来世代ビジネスフォーラム（2023年9月2日）

●リバーСПitchと未来世代ビジネスフォーラム

ASEAN 関連首脳会議に先立って、ビジネス関連行事も開催されました。9月1日、経済産業省・JETRO・インドネシア経済調整担当大臣府の共催で、日インドネシアの「[リバーСПitch](#)」が開催されました。これは、スタートアップがスポンサー企業候補にビジネスアイデアを提案する従来のPitchとは逆に、日本とインドネシアを代表する8つの企業が提示した課題に対して、100以上の応募から選ばれた23のスタートアップがプレゼンテーションを行ったものです。会場には150名を超える聴衆が集まりました。

更に、9月2日にはジャカルタで「[ASEAN ビジネス投資サミット](#)」のサイドイベントとして、ASEAN ビジネス諮問委員会(ASEAN-BAC)がJETRO・AMEICC・GenYouthの後援のもと「[ASEAN 未来世代ビジネスフォーラム](#)」を開催しました。インドネシアやマレーシアの担当閣僚も出席して冒頭挨拶を行いました。

いずれの行事も、日本から石黒憲彦 JETRO 理事長をはじめ大企業・スタートアップ企業など多くの官民関係者が参加しました。このような未来志向のビジネスの取組こそ、日 ASEAN 協力を大きなインパクトを与えます。



ASEAN 水路調査ワークショップ（2023年9月13日）

●マラッカ・シンガポール海峡の航行安全確保

ASEAN 関連首脳会議翌週の9月13日、インドネシア運輸省の主催により「[ASEAN 水路調査ワークショップ](#)」がジャカルタで開催されました。

これは、日本が日ASEAN統合基金（JAIF）を通じて支援している「マラッカ・シンガポール海峡共同水路調査」の測量調査終了に伴い、成果をASEAN諸国や関連業界の関係者に共有するために開催されたものです（[国交省報道資料](#)）。

私からは[開会挨拶](#)で、ASEANと日本をはじめインド太平洋地域の繁栄のためにマラッカ・シンガポール海峡の航行安全確保は必要不可欠であり、今回のワークショップは同海峡の航行安全確保を通じ、AOIPの優先分野である海洋協力や連結性の推進にも貢献すると述べました。他の参加者からは、日本への支援に対する謝意が述べられました。

今回のワークショップに出席して、日本は1969年から50年以上にわたり、[マラッカ海峡協議会](#)による航路標識整備や水路調査の取組を通じて、マラッカ・シンガポール海峡の航行安全確保に貢献していることを知り、感銘を受けました。



AHA センター主催トルコ・シリア人道支援活動教訓ワークショップ開会式
(2023年9月18日)

●日 ASEAN 防災協力のパートナー拡大

9月18日～19日には、同じく JAIF の支援を受けて、[「トルコ及びシリアにおける人道支援活動の教訓」ワークショップ](#)が、ASEAN 防災人道支援調整 (AHA) センターの主催によりジャカルタにおいて開催されました。

本ワークショップには、ASEAN 域内のみならず、豪州、インド、米国、日本、国連人道問題調整事務所 (OCHA) から専門家が参加しました。本年2月のトルコ・シリア地震対応の経験や教訓の共有に加え、今後 ASEAN が域外の緊急・人道支援に対応するために必要な取組を検討する貴重な機会となりました。私は[開会挨拶](#)を行い、岩田慎也国際緊急援助官は[基調講演](#)を行いました。

日本は、2011年のAHAセンター設立やその後の運営に対する協力などを通じて、ASEANの防災分野の取組を長年にわたり支援してきました。AOIPの主流化と実施に対する協力の一環として、本ワークショップのように他のパートナーとも協力することで、インド太平洋地域での防災の取組を一層強化していきたいと思っております。



ジャカルタ日本人学校中学3年生による提言・行動宣言（2023年9月15日）

●日 ASEAN 協力の未来の担い手をつくる

日本と ASEAN、世界をより良いものにするためには、以上のように、首脳レベルの取組と並行して、幅広い関係者と具体的な行動を起こすことが大事です。

その中で、特に重視すべきことは次世代の育成です。9月15日、ジャカルタ日本人学校（JJS）中学3年生から、総合学習の成果として、日本とインドネシア・ASEAN の関係を強化するための[提言と行動宣言](#)を受け取りました。

提言では、文化・人的交流の推進を中心に具体的なアイデアが出されました。行動宣言では、学校間のオンライン文化交流、インターネットでのインドネシア生活・文化の発信、ゴミ問題解決のための具体的な行動の3点が表明されました。

12月の日 ASEAN 友好協力 50 周年特別首脳会議に向けて、まずはこのような次世代の子どもたちに正面から向き合い、日 ASEAN 関係強化に向けて行動を起こす人たちの輪を一緒に広げていきたいと思えます。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦